

オホーツク海南部の網走の磯場から見つかった ダンゴイカ *Sepiolo birostrata*

宇仁 義和¹・窪寺 恒己²

1. 099-2493 網走市八坂 196, 東京農業大学オホーツクキャンパス 2. 305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1, 国立科学博物館

Sepiolo birostrata from the Rocky Beach in Southern Okhotsk Sea off Abashiri, Hokkaido

UNI Yoshikazu¹ & KUBODERA Tsunemi²

1. Tokyo University of Agriculture, 196 Yasaka, Abashiri, Hokkaido 099-2493, Japan. ✉ unisan@m5.dion.ne.jp 2. National Museum of Nature and Science, 4-1-1 Amakubo, Tsukuba, Ibaraki 305-0005, Japan

Five individuals of the butterfly bobtail squid *Sepiolo birostrata* were collected during low tide at a rocky beach facing the Sea of Okhotsk Sea at Abashiri, Hokkaido, Japan. They included one adult female collected on May 16, 2010, and three adult females (14.8, 19.7, and 20.7 mm) and one adult male (19.2 mm) collected on May 22, 2012. Reports from fishermen of “tiny bobtail squid” in coastal trawl catches and video records of tiny bobtail squid filmed by divers along the Shiretoko Peninsula suggest that this species occurs widely in coastal waters in the southern Sea of Okhotsk from Abashiri to Shiretoko. The Soya Warm Current, which enters the Sea of Okhotsk from the Sea of Japan through the Soya Strait (La Perouse Strait) and flows along the coast of Hokkaido near the collection site, is weak in May, which suggests that the collected squid were not transported from the Sea of Japan.

はじめに

ダンゴイカ *Sepiolo birostrata* Sasaki, 1918 は外套長 2 cm 前後、鰭は大きく半円形で腕は太く、腕吸盤は丸く大きく 2 列、蝕腕掌部は柳葉状で微小吸盤が 8–10 列に並ぶ。雄の左第 1 腕が交接腕で基部に二股の肉嘴がある。分布域は富山湾、東北南部以南、東シナ海全域であり、深度は陸棚から陸棚斜面域とされる (窪寺 2000)。これまで本種の分布が知られていなかった北海道オホーツク海側の網走沿岸で、本種を複数個体を採取したので報告する。

採集記録

北海道網走市新港町地先の磯場 (44°0'24" N, 144°17'17" E, WGS 84) で、2010 年 5 月 16 日に成熟メス 1 個体 (国立科学博物館で保存, 登録番号 NSMT-Mo 85253), 2012 年 5 月 22 日成熟メス 3 個

体 (外套膜長 20.7 mm, 19.7 mm, 14.8 mm) と成熟オス (外套膜長 19.2 mm) 1 個体の計 4 個体 (NSMT-Mo 85245), 合計 5 個体の小型のイカを採取し、交接腕などの観察からダンゴイカと同定した (図 1, 2)。採取場所は大潮時に潮間帯から露出したテーブル上の岩礁上の 1–2 cm の水たまりである。採取した 5 個体のうち 4 個体は死んでいたが、2012 年 5 月に深さ 5–10 cm ほどの水たまりで採取した 1 個体 (外套膜長 14.8 mm) は生きており、この個体については採取場所と水槽の両方でコンパクトデジタルカメラによる動画撮影を行った。ダンゴイカのオホーツク海の、しかも岸近くでの採取は、これまで知られてきた本種の分布域とは海域的にも深度的にも異なっている。

考察

今回採取された個体が海流により運ばれた可能

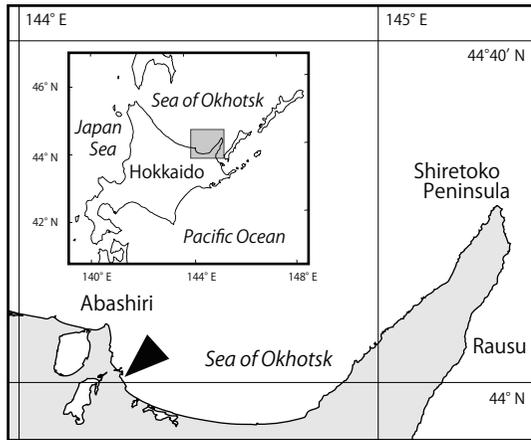


図1. 2010年5月および2012年5月にダンゴイカが得られた場所. Fig. 1. Collecting location of *Sepiolo birostrata* in May 2010 and 2012.

性は、網走での採取が宗谷暖流が弱い5月という時期から考えられない。

ダンゴイカを採取した場所は大潮の干潮時に比較的大きな干潟が現れ、春季の大潮の干潮時にはアサリ捕りの人が多いときには数十人が見られる場所である。それに関わらず、ダンゴイカの存在が知られていなかったのは、アサリの採取が海水が残る砂地の浅瀬で行われるのに対し、ダンゴイカが見つかった場所は海面からテーブル状に露出した岩礁で、ほとんど人が立ち入らず、また、海面上に露出した岩礁上のイカはカラスやカモメがいち早く食べてしまい人目につかなかったのかも知れない。

網走や知床半島でのダンゴイカについては、2008年2月の羅臼で撮影したとされる真っ暗な水中や砂地の海底近くを泳ぐ映像が動画共有サイトYouTubeで公開されている (N. Akimoto. 知床・羅臼のダンゴイカ. YouTube, <http://www.youtube.com/watch?v=XltZSKkovuk>, 2012年12月2日閲覧)。また、羅臼の磯場で耳のある数センチメートルのイカが観察されている (長谷川正人私信)。網走では10年程前に、小型底曳船でごく小さい珍し



図2. 網走の磯場で得られたダンゴイカ。2012年5月22日採取, NSMT-Mo 85245. 外套膜長 19.7 mm の成熟メス. Fig. 2. *Sepiolo birostrata* from the rocky beach off Abashiri, ML 19.7 mm of adult female.

いイカが混獲されたという話もあったという (山田訓二氏私信)。

以上のことから、ダンゴイカは、少なくとも北海道の網走から知床半島の羅臼側にかけて、すなわちオホーツク海南端から根室海峡にかけての沿岸部に分布すると考えられる。

謝辞

ダンゴイカに関する情報を教えて下さった山田訓二氏と長谷川正人氏、第一発見者の宇仁津吾氏にお礼申し上げます。

引用文献

窪寺恒己. 2000. ダンゴイカ. 奥谷喬司 (編), 日本近海産貝類図鑑, pp. 1,054–1,055. 東海大学出版会, 東京.